

Formula NIPPON NEWS 2010.7.18
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選 [富士スピードウェイ]

2010 年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選

ロイック・デュバル(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)が今季初 PP !

東海地方が梅雨明けし、夏空が広がった7月18日(日)、富士スピードウェイで2010年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第3戦が行なわれた。今回は、予選・決勝が1デーで行なわれるというスケジュール。まず午前中に、ノックアウト方式の予選が行われる。ほとんどのドライバーが1秒以内にひしめく激戦の中、PPを獲得したのは、1ロイック・デュバル(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)。これに、20平手晃平(Mobil 1 TEAM IMPUL)、32小暮卓史(NAKAJIMA RACING)、36アンドレ・ロッター(PETRONAS TEAM TOM'S)、8石浦宏明(Team LeMans)、そして、ランキングトップの19J.P.デ・オリベイラ(Mobil 1 TEAM IMPUL)と続いた。

眩しい太陽が照りつけた富士には、朝早くからフォーミュラカーのエンジンサウンドが鳴り響いた。フォーミュラ・ニッポン、予選Q1は、午前9時15分から開始された。20分間で行なわれるこのセッション、まずはほとんどのマシンが昨日の練習走行の最後にタイムアタックシミュレーション用で使用したユーズドタイヤでコースイン。マシンのバランスを確認する。この段階でデュバルは、1'26.539というトップタイムをマークした。すでに昨日のタイムを上回ってきていることから、PP争いは1分25秒台での争いになると思われた。その後、一旦ピットに戻ったマシンは、マシンを微調整。ニュータイヤでのタイムアタックに備える。そんな中、残り時間が9分となったところで石浦がフロントにだけニュータイヤを装着しコースイン、スクラブしてピットに戻る。そして、残り時間が7分となったあたりで16井出有治(MOTUL TEAM 無限)、さらに残り6分では18平中克幸(KCMG)を先頭に小暮、ロッター、平手、オリベイラ、10塚越広大(HFDP RACING)、デュバル、2伊沢拓也(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)、31山本尚貴(NAKAJIMA RACING)、37大嶋和也(PETRONAS TEAM TOM'S)がコースイン。タイミングがほぼ同時ということで、トラフィックを避けてスペースを見つけることが非常に難しい状況となる。一方、タイミングを若干ずらして来たのが、石浦と7ケイ・コッツォリーノ(Team LeMans)。その中でまず、トップタイムを叩き出したのが小暮だった。平手、ロッターがそれに続き、アタック中、タイヤにフラットスポットを作ってしまったというデュバルが4番手。以下、ルーキーの山本と続き、シリーズをリードしているオリベイラは6番手に留まった。またタイムを伸ばさずQ2進出を逃したのは、コッツォリーノと平中、29井口卓人(DELIZIEFOLLIE/CERUMO・INGING)だった。

10分間のインターバルを経て、10分間のQ2が開始されたのは、午前9時45分。直後に大嶋がフロントだけニュータイヤを装着してコースに入る。その大嶋がスクラブを終えて一旦ピットに戻ると間もなく、他のドライバーがコースイン。平手を先頭に、塚越、小暮、山本、デュバル、伊沢、オリベイラ、石浦、井出と、ほぼ同時にコースに入り、ここでもスペースを見つけ出すのが難しい展開となる。真っ先にコースに出てトラフィックに関係なくアタックを敢行した平手は、ここで1'26.034までタイムを伸ばす。これを上回ってきたのが小暮と石浦。小暮は、ここで1'25.841と、いよいよ25秒台に突入し、Q2でもトップを守る。また石浦も1'25.937と、小暮のタイムに迫った。以下、平手、ロッター、オリベイラ、デュバル、大嶋と続き、井出が8番手。ここまでがQ3進出を果たした。敗退となったのは、山本と伊沢、塚越の3人だった。

さらに10分間のインターバルを経て、午前10時05分からQ3が開始。ここでも開始と同時にまず、大嶋がフロントにニュータイヤを装着してコースインし、スクラブを行なう。その後、セッション開始から約3分半の時点でオリベイラがピットアウト。これを見て、ロッター、平手、小暮、石浦、デュバルがコースイン。この時は各ドライバーともにトラフィックを嫌い、ゆっくりピットロードを走りスペースを作ってコースへ入って行った。さらに1分ほど遅れて、今季初めてQ3進出を果たした井出がコースイン。フロントタイヤにすでに熱を入れていた大嶋は、残り4分を切ったところでコースへと入った。ここで最初にアタックに入ったのは、オリベイラ。しかし、オリベイラのタイムは1'26.337と今ひとつ伸びず、

Formula NIPPON NEWS 2010.7.18
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選 [富士スピードウェイ]

ロッテラー、平手が間もなくタイムを更新する。さらに、この2人のタイムを上回ってきたのがデュバルだった。デュバルはここで初めて1'25.999と、25秒台に突入してきた。一方の小暮は、ここでリズムを崩す。タイムアタック中に痛恨のシフトミスをしてしまい、チェッカーを受けると同時に自己ベストタイムをマークしたものの、デュバルにコンマ1秒、平手のタイムにはわずかに100分の6秒及ばず、3番手に終わった。さらに、ロッテラー、石浦、オリベイラと続いたが、各車のタイム差はそれぞれ100分の数秒差というまさに激戦。その中で、デュバルが見事に、ディフェンディング・チャンピオンの意地を見せる結果となった。

午後のレースも、自信をもって臨めるよ

1位：ロイック・デュバル (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)

みんな、待っていてくれてありがとう。チャンピオンを獲ってから移籍して、初めての予選1位ということで、すごくうれしいよ。Q3は今日の中で一番速いラップじゃなかったけど、重要なQ3でトップタイムを出すことができ本当に良かったと思っている。鈴鹿の時点から自分としてはいい感じだった。そしてもてぎ、今回と、エンジニア達もすごく頑張ってくれたし、チームにとってもいい結果になったと思う。まあ、予想していたよりは早い段階でのポールだったかな？ オフは少し難しい状況だったからね。でも、もてぎから調子が上向いてきて、今はいい状態を保っている。勝ちたいと思っているのはもちろん、常に表彰台を狙ってレースをしている。だから、ポールからスタートできるということはその意味でもいいチャンスだ。もうすでにチャンピオンシップでは他のドライバーがずいぶんリードしてしまっているのだから、早く追いつかなければならないからね。レースも、昨日中古タイヤでも全く問題なかったから、自信をもって臨めるよ。

“平手晃平のオーバーテイク”に期待しててください

2位：平手晃平 (Mobil 1 TEAM IMPUL)

第2戦から、一ヶ月半ぶりのフォーミュラ・ニッポンですが、その間に工場の方で新しいセットアップを見つけて(マシンを)もって来たんですけど、昨日はかなり悪い状況でした。だから昨日のデータをもとにセッティングを見直して、まあぶっつけ本番だったんですけど感触的にはQ3に行ける自信があったので、Q1からQ3まではセッティングは変えずに自分のマシンと自分の腕を信じて、今日は予選に臨みました。Q3ではセクター2のヘアピンの進入でブレーキングをミスをしてしまって、コンマ3秒くらいロスしたと思います。ほんのちょっとなんですけど、Q3ではこれが大きい。だからショックではありました。ただ、昨日からしてみればクルマの状況はかなりいいですし、ポジティブに考えて午後のレースに臨んで、勝ちにいきたいと思います。いつもの“平手晃平のオーバーテイク”に期待しててください。

しんどい予選でした

3位：小暮卓史 (NAKAJIMA RACING)

今日の予選は“今までで初めて”とも言えるくらい、しんどい予選でした。昨日はそんなに調子は良くなかったんですけど、徐々にそこからエンジニア達がクルマを作ってくれてどんどん戦闘力が上がってきて、Q1、Q2と非常に僅差ながらもトップをキープすることが出来たのに、最後のQ3に関しては、完全に自分のシフトミス。13コーナーで、3速のところを2速に入れてしまうという……。他にもヘアピンでもミスしてタイヤにフラットスポットを作ってしまったたり、本当にチームには申し訳なかったと思っています。昨日は予選重視だったので、燃料を満タンにしての走行をやっていないのですが、でも、積んでも(レースでも)決して悪くはないと思います。

Formula NIPPON NEWS 2010.7.18
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選 [富士スピードウェイ]

第3戦・予選結果

富士スピードウェイ (全長) 4,563m

天候：曇り コース：ドライ 気温/路面温度：28 /40
開始/終了時間 Q1：9:15～9:35 / Q2：9:45～9:55 / Q3：10:05～10:15

Po	No	Name	Team	Q3	Q2	Q1
1	1	ロイック・デュバル	DOCOMO DANDELION	1'25.999 /1	1'26.285/6	1'26.285/4
2	20	平手 晃平	Mobil1 TEAM IMPUL	1'26.035/2	1'26.034/3	1'26.292/2
3	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1'26.098/3	1'25.841/1	1'26.280/1
4	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TOM'S	1'26.122/4	1'26.277/4	1'26.474/3
5	8	石浦 宏明	Team LeMans	1'26.179/5	1'25.937/2	1'26.780/10
6	19	J.P.デオリベイラ	Mobil1 TEAM IMPUL	1'26.215/6	1'26.283/5	1'26.658/6
7	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S	1'26.378/7	1'26.298/7	1'26.750/9
8	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	1'26.757/8	1'26.414/8	1'26.692/7
9	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING		1'26.454/9	1'26.621/5
10	2	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION		1'26.598/10	1'26.733/8
11	10	塚越 広大	HFDP RACING		1'35.094/11	1'35.595/11
12	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans			1'27.115/12
13	18	平中 克幸	MOTUL TEAM 無限			1'27.185/13
14	29	井口 卓人	CERUMO・INGING			1'27.662/14

タイムの後の数字は各セッションの順位

Formula NIPPON NEWS 2010.7.18
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選 [富士スピードウェイ]

2010 年全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・決勝

平手晃平(Mobil 1 TEAM IMPUL)が今季初優勝!

午前中に行なわれた予選に続き、7月18日(日)の午後、フォーミュラ・ニッポン第3戦の決勝レースが行なわれた。非常に暑いコンディションの中、ドライバーにとってもタフな一戦となったが、200km・44周のレースで序盤から独走劇を見せて今季初優勝を果たしたのは、20 平手晃平(Mobil 1 TEAM IMPUL)。2位には 36 アンドレ・ロッター(PETRONAS TEAM TOMS)、3位には 19J.P.デ・オリベイラ(Mobil1 TEAM IMPUL)。この結果、シリーズランキングではオリベイラがトップを堅持。ロッターが2番手に浮上し、今回5位に終わった 32 小暮卓史(NAKAJIMA RACING)が3番手に後退。今日、優勝を果たした平手が、小暮と2ポイント差に迫る4番手に浮上した。

ジリジリと照りつける真夏の太陽の下、気温 31、路面温度 46 というコンディションとなった午後2時45分、フォーメーションラップがスタート。14台のマシンが正規グリッドに着く。レッドシグナルが1つ1つ点灯し、オールレッドからブラックアウト。いよいよ正式スタートが切られる。ここで異変が発生した。ポールシッターの 1 ロイック・デュバル(DOCOMO TEAM DANDELION RACING)がエンジンストール。完全にコース上に止まってしまう。そのため、後方のマシンは大混乱。中団グループは大きく順位が入れ代わる。一方、ここでホールショットを奪ったのは平手。これにロッター、小暮と続くが、1コーナーのブレーキングで、小暮がロッターに軽く追突。その真後ろにいたオリベイラはその2台との接触を避けて1コーナーでアウト側にはみ出し、一旦ポジションを落とした。同じ周のコカ・コーラ・コーナーでは、好スタートを切った 37 大嶋和也(PETRONAS TEAM TOMS)が 8 石浦宏明(Team LeMans)と小暮をかわし、3番手に浮上した。さらにダンロップコーナーでは、一時6番手まで後退したオリベイラが石浦をオーバーテイク。これで1周を終えてのオーダーは、平手、ロッター、大嶋、小暮、オリベイラ、石浦となる。

トップの平手は1周目から、他のマシンよりもコンマ5秒ほど速い1分29秒前半のラップを刻み独走。わずか5周で2番手以降に対し約4秒というマージンを稼ぐ。その後方ではオリベイラがポジションを徐々に回復。2周目のコカ・コーラ・コーナーで小暮をかわして4番手とすると、6周目の1コーナーではオーバーテイクボタンを使って大嶋をかわし、3番手まで浮上した。ここからオリベイラは、前を行くロッターとのタイム差をジワジワと削っていき、10周を終えたあたりから2台の争いはテール・トゥ・ノーズとなる。コーナー区間では明らかにペースが速いオリベイラ。しかし、最終コーナー立ち上がりからストレートにかけてはロッターの方が速く、なかなかポジションの入れ代わりまでは至らない。結局この接近戦バトルは30周近くに渡り続いたが、これでオリベイラはフロントタイヤを消耗したのか、レースが終盤に入るとロッターのペースが次第に上回り始め、2台のギャップも次第に広がっていった。この間にトップの平手はどんどんギャップを開き、最大では14秒近くも後続を引き離す。その後も、平手は危なげなく走り切り、今季初のトップチェッカー。デビューイヤーに2ヒート制のレースで、リバースグリッドから優勝したことはあったが、ノーマルグリッドからスタートする1ヒート制のレースでは初めての優勝を果たした。ロッターは激しいバトルを演じた末ポジションを死守し、2位。風邪を引いて体調を崩しながらも最後まで粘りの走りを見せたオリベイラが3位に入賞している。

Formula NIPPON NEWS 2010.7.18
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選 [富士スピードウェイ]

決勝トップ3ドライバー・トップチーム監督コメント

総合1位：平手晃平(Mobil 1 TEAM IMPUL)

まずチームスタッフ、監督はじめ、皆さんに「ありがとう」とお礼を言いたいです。ようやく結果を残せたので、嬉しく思っています。ここ2戦スタートで失敗していたので、100%集中して今日は、いいスタートを切りたいと思っていました。レース前、監督からも「街の中の信号と一緒に落ち着いて行け。44周ドライブするつもりで今日は走れ」と言っていただけで、自分の中でもいいスタートが切れました。その後は昨日、サーキットサファリの時に重たい状態で走った時にクルマが決まっていたので、とにかくブレーキを労われるようなレース展開に持ち込めれば、今日は勝てると思っていました。スタートしてから前半はプッシュしたんですけど、後ろがあんなに離れていったのにビックリしました。それだけ本当に、クルマのセットアップが良かったです。スタート前に思い描いていたような展開のレースをすることができました。

総合2位：アンドレ・ロツテラー(PETRONAS TEAM TOM'S)

スタートはすごく良くて、1コーナーでは平手選手のすぐ近くまで迫ることができたんだけど、そこでインに飛び込むのはリスクが高すぎると思ってポジションをキープした。そしたら後方から小暮選手がコントロールを失ったのか、僕に追突してきて、スピンしそうになったよ。それでも何とか持ちこたえて、ポジションを守ることができたんだ。その後、レース序盤の3分の1くらいのところまでは平手選手のペースが僕よりもずっと速くて、追いかけていくことはできなかった。僕は、自分のタイヤをコントロールしなくちゃならなかったしね。何周かプッシュするとタイヤのグリップが落ちるのが感じられたから。特に第3セクターで。そのうちにJ.P.が迫ってきたんだけど、何とか彼に抜かれないように抑えながら走らなければならなかった。でも、終盤はとてクルマがいいバランスになってきて、最終的に2位になれたのは良かったよ。

総合3位：J.P.デ・オリベイラ(Mobil 1 TEAM IMPUL)

すごくタフなレースだった。特に肉体的に大変だったね。実は風邪を引いてしまっていて具合がとても悪かったので、レースを走り切るのに苦しんだよ。レース中は、ひどい頭痛に見舞われたりもしていたんだけど、とにかく最後まで走り切ることができて良かった。できる限りプッシュしたし、再度表彰台を獲得できてシリーズリーダーの座を守ることができて良かったよ。僕のスタートはとても良くて、ストレート上で石浦選手や小暮選手を抜くことができた。でも1コーナーに向けて、小暮選手が信じられないくらいブレーキングで突っ込んで行って、アンドレとぶつかるのが見えた。そこで僕がターンインしていったらその2台とぶつかるっていう状態だったから、僕は避けるしかなかった。クラッシュするか、コースアウトするかっていうチョイスしかなかったんだ。その後、レース序盤はリスクを負ってプッシュした。そこが一番クルマの差のある時だから。そして、他のドライバーを抜き返すことができたんだよね。

優勝チーム監督：星野一義 (Mobil 1 TEAM IMPUL)

長くて、早く終わらないかなと思って見ていたよね。さっきオリベイラは、小暮選手のことを“クレージーだ”って言うていたと思うけど、僕はオリベイラも“クレージー”だと思うし、そういう所がすごく好きなんだよね。スタート直後に一旦コースアウトして遅れたけど、そこから石浦選手や小暮選手、大嶋選手をオーバーテイクしていくのを見ていたら、あれはちょっと日本人にない血っていうか、あの迫力というのは凄い、そこに惚れているわけですけど、それがなければ今日も3位のポジションをキープするのは難しかったと思います。一方、平手には「とにかくドライブしてこい」と。平手に一番いいのは、とにかく何も言わないで、プレッシャーを与えないことだというのが僕の判断。だからそういう風にやったらホントにトップで1コーナーに入って行って、その映像がちょっと信じられませんでした(笑)。走り出したらいつも安心して見てられるんで、スタートさえ上手く行けばと思っていましたし、1周目の最終コーナーまでトップで来た時に、“これはもうイケるな”と思いましたね。マイペースで走っていても離れて行くので、こっちからは何も指示はなし。ドライバー自身のコントロールでレースをさせましたが、上手く行き過ぎたぐらい上手く行ったレースで、本当に素晴らしい結果に終わって感謝しています。オリベイラもポイントでトップをキープできましたし、今日は本当にいい1日でした。

Formula NIPPON NEWS 2010.7.18
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第3戦・予選 [富士スピードウェイ]

第3戦・決勝結果

富士スピードウェイ (全長) 4,563m

天候 : 曇り コース : ドライ 気温/路面温度 : 32 /46
 開始 / 終了時間 Q1: 14:49 ~ 15:55

Po	No	Name	Team	Time	Delay	Best time
1	20	平手 晃平	Mobil1 TEAM IMPUL	1:06'05.040		1'29.142
2	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TOM'S	1:06'17.833	12.793	1'29.848
3	19	J. P. デ.オリベイラ	Mobil1 TEAM IMPUL	1:06'19.930	14.890	1'29.317
4	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S	1:06'24.363	19.323	1'29.934
5	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	1:06'25.382	20.342	1'29.905
6	8	石浦 宏明	Team LeMans	1:06'30.363	25.323	1'29.997
7	31	山本 尚貴	NAKAJIMA RACING	1:06'31.531	26.491	1'30.058
8	7	ケイ・コッツォリーノ	Team LeMans	1:06'37.967	32.927	1'30.312
9	2	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION	1:06'54.046	49.006	1'30.176
10	16	井出 有治	MOTUL TEAM 無限	1:06'58.646	53.606	1'30.221
11	10	塚越 広大	HFDP RACING	1:07'05.634	1'00.594	1'30.810
12	29	井口 卓人	CERUMO・INGING	1:07'13.192	1'08.152	1'30.801
13	19	平中 克幸	KCMG	1:07'20.362	1'15.322	1'30.987
14	1	ロイック・デュバル	DOCOMO DANDELION	1:06'40.183	1Lap	1'30.085

Fastest Lap 1 29.142(5/44) 184.277km/h #20 平手 晃平 / Mobile1 TEAM IMPUL

【この件に関するお問い合わせ】

株式会社日本レースプロモーション

広報担当 外間

media@f-nippon.co.jp